

農林水産大臣賞

| | |
|------------------|---|
| 氏名・集団名 | 株式会社上原農場 <small>うへはらのうじょう</small> 代表取締役 上原 安浩 <small>うへはら やすひろ</small> |
| 所在地 | 北海道標津郡中標津町 |
| 立地・生育条件 | 中標津町は東北海道に位置し、酪農地帯で平坦である。土地は主に泥炭地と火山灰土で構成される。気温の年較差が大きく、特別豪雪地帯に指定されている。 |
| 年産 | 平成27年 |
| 品種・単収・品質 | キタワセソバ(114kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 280.0ha |
| そば作付面積 | 175.0ha 〈畑175.0ha〉 |
| 収穫量 | 200,000kg |
| 労働時間 | 1.00時間/10a |
| 生産費 | 11,525円/10a |
| 機械化の現状 | プラウ、パワーパー、ドリル、コンバイン |
| 作付体系 | ジャガイモ～そば～緑肥 |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(65%) 平均10,000円/45kg |
| 出荷状況 | 製粉会社、商社 |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・密植による倒伏防止、魚カスを肥料にした有機栽培。 ・機械化による省力化を進め、大規模かつ効率的な生産を行っている。 ・乾燥・調製については徹底して実施している。 ・いも・緑肥との輪作で地力維持を図る。 ・今後はさらに高度な排水対策の必要性を感じている。 ・地元そばまつりや中標津手打ちそば「ささ藪学校」へのそば粉の供給により、地域のそば文化発展に貢献している。 ・地域特産物としてのそばを、地元商工会議所などと一緒に盛り上げてゆきたいと考えている。 |

農林水産省政策統括官賞

| | |
|------------------|---|
| 氏名・集団名 | 藤井 美智男 <small>ふじい みちお</small> |
| 所在地 | 群馬県沼田市利根町 |
| 立地・生育条件 | 沼田市は県北部に位置し、年平均気温11.6℃、年間降水量1,125mm。中山間～山間地のため鳥獣害が深刻で永久柵を設置した。 |
| 年産 | 平成28年 |
| 品種・単収・品質 | キタワセソバ(180kg/10a・2等)、利根在来(112kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 5.5ha |
| そば作付面積 | 3.0ha 〈畑3.0ha〉 |
| 収穫量 | 540kg(キタワセソバ)、3,015kg(利根在来) |
| 労働時間 | 5.62時間/10a(夏ソバ)、5.22時間/10a(秋ソバ) |
| 生産費 | 15,575円/10a |
| 機械化の現状 | トラクター、ロータリー、刈り払い機、コンバイン |
| 作付体系 | 夏そば～秋そば、未成熟トウモロコシ/エダマメ～秋そば |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(10%) 平均18,000円/45kg |
| 出荷状況 | 市内そば店、市外そば店 |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・前作の未成熟トウモロコシやエダマメの深い根張りによって排水性が改善され、残渣をすき込むことで地力が上がり、無肥料での栽培を可能にしている。 ・黒化率70～80%での適期収穫を心掛け、乾燥・調製にも気を配ることで、そばの風味にこだわるそば店にも受け入れられるそばを生産している。種子は自家採種しているが利根在来種の品種特性を維持するために、赤城根そば組合内で少しづつ交換を行い、3年毎に全量更新している。 ・野菜農家からの期間借地体系が特徴的で、前作の残肥でそばを生産、そば生産後の農地では野菜の収量・品質が向上するため、土づくりに要するコストが削減できる。農地の有効利用とともに、循環型農業が確立している。 ・遠隔地の農地では、地元養蜂業者の蜂箱置き場に近く、開花結実が向上した。 ・赤城根そば組合・群馬奥利根連合そば会・群馬そば文化連絡協議会など、地元の組織活動を通じてそばの生産・産地・消費の振興に尽力している。 |

全国農業協同組合中央会会長賞

| | |
|------------------|--|
| 氏名・集団名 | 藤田 博子 |
| 所在地 | 茨城県常陸大宮市 |
| 立地・生育条件 | 常陸大宮市は県北西部に位置し、年平均気温12.7℃、年間降水量1,344mm。平成28年は播種後に雨が多かった。 |
| 年産 | 平成28年 |
| 品種・単収・品質 | 常陸秋そば(89kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 11.5ha |
| そば作付面積 | 6.4ha (田6.4ha) |
| 収穫量 | 5,693kg |
| 労働時間 | 8.38時間/10a |
| 生産費 | 27,107円/10a |
| 機械化の現状 | マニュアルスプレッダー、ライムソー、トラクター、カルチベーター、コンバイン |
| 作付体系 | 休耕～そば～休耕～そば、ねぎ～休耕～そば～休耕～ねぎ |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(17%) 平均16,719円/45kg |
| 出荷状況 | 県内問屋、JA常陸 |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地権者から作付の要望がある農地で栽培を拡大。拡大する栽培面積を効率的に作付するために機械化された体系でそばの栽培を行っている。 ・契約出荷においては完全更新種子で栽培しており、「常陸秋そば」の特徴が生かされている。 ・十分に腐熟した良質堆肥を施用し、肥沃な土作りに取り組んでいる。さらに、中耕・培土により肥沃な土で倒伏防止や雑草を抑制している。 ・そば以外にもイチゴ・飼料米・ネギなど多角的な家族経営を行っている。 ・生産者の父親はJA常陸の常陸秋そば生産部会長として地域のそば生産をけん引している。 ・近年は産地の高齢化が進み、農地を貸したいという要望が多く、農地中間管理機構を通じて農地を借り受けてそば生産を拡大している。地域特産物のそば生産の維持により、農地の荒廃防止と農村景観の維持につながっている。 |

全国農業協同組合中央会会長賞

| | |
|------------------|---|
| 氏名・集団名 | 農事組合法人ファームはぐり (代表者 増田 良一) 構成農家戸数=60戸 |
| 所在地 | 福井県越前市余田町 |
| 立地・生育条件 | 越前市は県のほぼ中央に位置し夏は高温多湿、冬は降雪が多い。 |
| 年産 | 平成27年 |
| 品種・単収・品質 | 大野在来(86kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 52.5ha |
| そば作付面積 | 10.1ha (田10.1ha) |
| 収穫量 | 8,701kg |
| 労働時間 | 4.83時間/10a |
| 生産費 | 29,474円/10a |
| 機械化の現状 | トラクター、播種機、コンバイン |
| 作付体系 | 大麦～そば～水稲(2年3作) |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(5%) 平均9,500円/45kg |
| 出荷状況 | JA越前たけふ |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・大麦栽培後の後作にそばの作付を行うことで、作業の分散化等、生産を効率化し、農地の有効利用を図っている。 ・額縁明渠により排水対策を徹底している。 ・排水性と根の発達を促すため、ほ場を均平化し深耕は15cm以上を確保。 ・地域全体として特別栽培の取組みを推進しており、無農薬・無化学肥料での栽培を行っている。 ・福井県特別栽培認証制度の栽培基準による取組みを実施(特別栽培①:無農薬無化学肥料栽培)し、付加価値を向上させている。 ・環境保全型農業直接支払制度に取り組んでいる。 ・認定農業者であり、地域の模範となる農業者である。 ・越前市内において、水稲・麦・そば等の作付を大規模に行っており、地域の模範となるきめ細やかな経営を行っている。 |

一般社団法人 日本麺類業団体連合会会長賞

| | |
|------------------|--|
| 氏名・集団名 | 小 竹 敏 男 |
| 所在地 | 茨城県結城郡八千代町 |
| 立地・生育条件 | 八千代町は県南西部に位置し、年平均気温14℃、年間降水量1,250mm。温暖ではあるが冬季は季節風が吹く。平成28年は台風9号により一部ほ場に影響があった。 |
| 年産 | 平成28年 |
| 品種・単収・品質 | 常陸秋そば(56kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 32.0ha |
| そば作付面積 | 12.0ha (畑12.0ha) |
| 収穫量 | 6,750kg |
| 労働時間 | 2.75時間/10a |
| 生産費 | 21,872円/10a |
| 機械化の現状 | 溝掘機、ブロードキャスター、スタブルカルチ、ドリルシーダー、コンバイン |
| 作付体系 | 麦～大豆～麦～そば、麦～そば～麦 |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(10%) 平均16,000円/45kg |
| 出荷状況 | 県内問屋、(株)クボタ |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 穀殻堆肥を3年に1度施用、石灰・ようりんの施用により地力増進を図る。 ・ 排水対策のために毎年額縁明渠を設置、2～3年に1回溝掘機で明渠を設置。 ・ 「常陸秋そば」固有の品質を維持するため、一定割合で種子更新を実施。 ・ 風味の良いソバにするために早めに刈入れを行うようにしており、契約取引増加につながっている。 ・ 機械化により作業時間の短縮を図り、ドリルシーダーでの側条施肥で省力化につなげている。 ・ 発酵鶏ふんの利用により肥料コストの削減を図る。 ・ 全量播種前契約を行い、平成27年から(株)クボタとの契約販売を開始。 ・ 八千代町の秋まつりにおいて「常陸秋そば」のPR活動を実施。 ・ 兼業農家等の転作受託面積も大きく、地域の農地保全にも貢献している。 |

一般社団法人 日本麺類業団体連合会会長賞

| | |
|------------------|---|
| 氏名・集団名 | たけ うち ひろ たか 竹 内 裕 孝 |
| 所在地 | 長野県茅野市 |
| 立地・生育条件 | 茅野市は諏訪盆地の中央に位置し、ほ場は八ヶ岳西麓にある。年平均気温11℃、年間降水量1,300mm。年間を通じて寒暖の差が大きい |
| 年産 | 平成28年 |
| 品種・単収・品質 | 信濃1号(97kg/10a・1等、2等) |
| 経営耕地面積 | 1.8ha |
| そば作付面積 | 1.8ha (田1.1ha、畑0.7ha) |
| 収穫量 | 1,745kg |
| 労働時間 | 5.83時間/10a |
| 生産費 | 28,398円/10a |
| 機械化の現状 | トラクター、ロータリーシーダー、草刈り機、コンバイン |
| 作付体系 | そば単作 |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(5%) 平均15,000円/45kg、丸抜きそば販売(4%) 850円/kg、十割そば販売(91%) |
| 出荷状況 | そば店 |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年、市農業支援センターのそば栽培講習会に参加し、排水対策・施肥・適期播種・適期収穫等について情報収集している。 ・ ほ場は休耕田や耕作放棄地を再生させたものであり、それぞれのほ場に合わせた排水対策や土壌改良を行っている。 ・ そばの色と風味を最も大切にし、適期収穫と低温乾燥などにより、そばの風味を保っている。 ・ 自ら経営するそば店『手打ちそば蓼山亭』が所属する「信州そば切りの会」副会長を務める他、認定農業者等としてそばの普及に幅広く携わっている。 ・ そばの生産をはじめたきっかけは、長野県を訪れる旅行者に美味しいそばを味わってもらうには自ら納得するそばを生産するのが最善だと思ったためである。 ・ 『手打ちそば蓼山亭』では、自らが育てたそばの味そのものを味わってもらうため、十割蕎麦のみを提供している。 |

全国蕎麦製粉協同組合理事長賞

| | |
|------------------|--|
| 氏名・集団名 | おといねっぶむら 音威子府村畑作振興協議会 (代表者 <small>かみで ひでゆき</small> 上出 秀行) 構成農家戸数=5戸 |
| 所在地 | 北海道中川郡音威子府村 |
| 立地・生育条件 | 音威子府町は上川地方北部に位置し、気温は30℃～-30℃になることもある。道内でも有数の豪雪地帯で寒暖差が非常に大きい。 |
| 年産 | 平成28年産 |
| 品種・単収・品質 | キタワセソバ(87kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 434.4ha |
| そば作付面積 | 362.0ha (畑362.0ha) |
| 収穫量 | 315,000kg |
| 労働時間 | 1.73時間/10a |
| 生産費 | 28,033円/10a |
| 機械化の現状 | サブソイラー、プラウ、ロータリー、ドリルシーダー、コンバイン |
| 作付体系 | そば単作、牧草～そば～南瓜 |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(46%) 平均13,500円/45kg |
| 出荷状況 | ホクレン等 |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・暗渠・基盤整備・心土破碎などの排水対策の徹底により湿害を回避。 ・土壌診断を定期的を実施し、地力に応じた施肥量・施肥体系に取り組む。 ・収穫時期の見極めと乾燥・調製のスピード化により品質の低下を防ぐ。 ・そば本来の色・粘り・味を最大限引き出せるよう、種子更新を行っている。 ・乾燥・調製施設においては個人・ほ場毎に調製管理を実施、トレーサビリティについても万全の配慮をしている。 ・地域の主産物として「匠そば」のブランド化に取り組む。「匠そば」の認知度を向上させるため、イベントへの出店や町内飲食店での使用のよるPRを実施。 ・転作作物として、小麦や甜菜の作付も行われていたが、伝統のある「音威子府そば」は自然条件にも合致し、地域の主力生産物として作付面積が大幅に増加した。 |

全国蕎麦製粉協同組合理事長賞

| | |
|------------------|--|
| 氏名・集団名 | じょうほくそば生産組合 (代表者 <small>しみず まこと</small> 清水 誠) 構成農家戸数=5戸 |
| 所在地 | 茨城県東茨城郡城里町 |
| 立地・生育条件 | 城里町は全体の61%が森林で、年平均気温13.3℃、年間降水量1,350mm。平成28年は台風・早期降雪による影響が見られた。 |
| 年産 | 平成28年 |
| 品種・単収・品質 | 常陸秋そば(73kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 34.3ha |
| そば作付面積 | 34.3ha (畑34.3ha) |
| 収穫量 | 24,886kg |
| 労働時間 | 2.20時間/10a |
| 生産費 | 19,248円/10a |
| 機械化の現状 | ロータリー、播種機、コンバイン |
| 作付体系 | そば単作、そば～そば～そば～サトイモ/ジャガイモ/エダマメ/ショウガ、そば～ハトムギ |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(98%) 平均20,000円/45kg、そば粉販売(2%) 平均1,400円/kg |
| 出荷状況 | 県内問屋、JA常陸 |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の作物との輪作体系を取り入れ、連作障害を回避している。 ・ロータリー耕のみでは作土の浅層化のおそれがあるため、試験的にプラウ耕の導入を始めた。倒伏防止のために無施肥栽培を実施。春～夏にかけては大きくなった草をすき込んで、緑肥として土づくりに役立てている。 ・毎年種子更新50%を目指し、品質の向上に向けて、適期播種、乾燥・調製の徹底を実施している。 ・コスト低減のための取り組みとしてトラクター以外の農機は組合員で共有し、機械費を抑え、無施肥栽培によって肥料費を抑制している。耕作放棄地を農業委員会から積極的に斡旋してもらいなど、規模拡大を進めているが、農地集積や土地条件を意識している。 ・製粉業者・県内飲食店との契約栽培により安定した出荷先を確保している。 |

全国蕎麦製粉協同組合理事長賞

| | |
|------------------|---|
| 氏名・集団名 | 株式会社たつのアグリ 代表取締役 <small>きしの のぼる</small> 岸野 昇 |
| 所在地 | 兵庫県たつの市揖保川町 |
| 立地・生育条件 | たつの市は県南西部に位置し、年平均気温15.0℃、年間降水量1,250mm。温暖で少雨、降雪はほとんどない |
| 年産 | 平成27年 |
| 品種・単収・品質 | 常陸秋そば(135kg/10a・1等、2等) |
| 経営耕地面積 | 44.9ha |
| そば作付面積 | 7.9ha 〈田7.9ha〉 |
| 収穫量 | 10,579kg |
| 労働時間 | 1.42時間/10a |
| 生産費 | 25,279円/10a |
| 機械化の現状 | 溝掘機、トラクター、播種機、コンバイン |
| 作付体系 | 1年目:水稲、2年目:小麦～そば(2年3作) |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(7%) 平均8,325円/45kg、そば粉販売(2%) 1,000円/kg |
| 出荷状況 | 榊寺尾製粉所 |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・そばの前作である麦栽培時に徹底した排水対策を実施し、さらにそば栽培時に改めて額縁明渠と排水溝を設置している。麦わら残渣のみを活用した無化学肥料・無農薬栽培を行っており、平成24年に「ひょうごの安心ブランド」を取得している。 ・市内養鶏農家の鶏糞と市内醤油会社の醤油しぼりかすを麦作前に投入することによる資源循環型の土づくりに努めたことが品質向上につながっている。収穫までの栽培に特化し、収穫作業以降の作業については全面外部に委託し、作業時間の短縮とコスト低減を図っている。 ・出荷先で商品となった「そば粉」は出荷先から一部買い戻して「たつのアグリ産そば粉」として地元直売所で販売している。 ・地元集落でそば打ち体験のイベント等を実施するほか、地元小学校でもそば打ち作業体験を行うなど食農活動も実施している。 |

一般社団法人 日本蕎麦協会会長賞

| | |
|------------------|---|
| 氏名・集団名 | <small>がんしよぼう</small> 岩誦坊クラブ (代表者 <small>さいとう とみはる</small> 齊藤 富春) 構成農家戸数=30戸 |
| 所在地 | 岩手県二戸市浄法寺町 |
| 立地・生育条件 | 二戸市は県北内陸部に位置し、年平均気温9.9℃、年間降水量785mm。積雪が多く、風が強いのが特徴で、年較差の大きい内陸性気候である。 |
| 年産 | 平成28年 |
| 品種・単収・品質 | 在来種(91kg/10a・1等)、にじゆたか(30kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 2.5ha |
| そば作付面積 | 2.5ha 〈田1.5ha・畑1.0ha〉 |
| 収穫量 | 2,000kg(在来種)、90kg(にじゆたか) |
| 労働時間 | 5.66時間/10a |
| 生産費 | 30,780円/10a |
| 機械化の現状 | ロータリー、肥料散布機 |
| 作付体系 | そば単作 |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(2%) 平均11,250円/45kg |
| 出荷状況 | 地元温泉施設 |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・土地により地力が異なるため、施肥量を調整し、収量の及び品質の安定化を図っている。倒伏が多く、収量及び品質が低下していたため、平成28年より新品種「にじゆたか」を導入し、収量・品質の向上を図った。今後はさらなる収量・品質の向上を目指したいと考えている。 ・栽培ほ場から近い地元温泉施設・天台の湯との栽培契約を実施している。 ・「稲庭高原まつり」等地域イベントでのそば打ちやたい焼きの販売などを通じ、地域振興に貢献している。 ・Facebookやホームページにより積極的に情報発信を行っている。 ・当初は遊休のうちに景観作物として「赤そば」を植えていたが、地域でのイベントでそばを振る舞いたいということもあり、食用そばの栽培を開始した。 |

一般社団法人 日本蕎麦協会会長賞

| | |
|------------------|--|
| 氏名・集団名 | は せ が わ げ ん こ 長 谷 川 源 吾 |
| 所在地 | 福井県坂井市春江町 |
| 立地・生育条件 | 坂井市は県北部に位置し、年平均気温15.5℃、近年は集中降雨がある。土地は九頭竜川の扇状地で比較的水はけが良い。 |
| 年産 | 平成27年 |
| 品種・単収・品質 | 福井在来(100kg/10a・1等) |
| 経営耕地面積 | 34.9ha |
| そば作付面積 | 3.7ha 〈畑3.7ha〉 |
| 収穫量 | 3,700kg |
| 労働時間 | 4.00時間/10a |
| 生産費 | 9,337円/10a |
| 機械化の現状 | トラクター、ロータリー、コンバイン |
| 作付体系 | 大麦～そば～水稻(2年3作) |
| 経営上の割合等 | 玄そば販売(2%) 平均10,500円/45kg |
| 出荷状況 | JA |
| 技術上の工夫 経営上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・大麦作後の水田への作付(2年3作)のため、麦の額縁排水や弾丸暗渠を利用しつつ、ほ場内に5m間隔に溝を掘り、額縁につなぐことで排水対策を実施している。播種は降雨による土壌の湿潤状態を回避し、好天時を見計らって行っている。 ・小粒ながら風味豊かな在来種を作付しており、そば専用の乾燥機の使用により、じっくり乾燥を行うことで風味を損なわないようにし、自家種子の利用や乾燥・調製を自前で行うなどコスト削減につとめている。 ・認定農業者であり、地域の模範となる農業者である。 ・家族や地元の有志により、手打ちそばを700食分地元の寺に提供するなど、地域振興にも尽力している。 ・今後も排水対策など行いながら、安定生産性を向上させるための新技術の導入等について情報の収集を行う。 |

一般社団法人 日本蕎麦協会会奨励賞

本年度より新設された「一般社団法人 日本蕎麦協会奨励賞」は、2次審査において各賞の対象とならなかった候補者について、他の模範となる生産者として、今後の経営の発展を期待して贈呈することといたしました。奨励賞受賞者については、来年度以降、作付面積・収量・生産技術・経営・取り組みなどについて発展が見られた場合には再度表彰事業への応募が可能となります。

<平成28年度 一般社団法人 日本蕎麦協会奨励賞>

| | |
|--------------|----------|
| 澤 口 辰 雄 | 北海道江差町 |
| 本 木 勝 美 | 山形県鶴岡市 |
| 山ノ内町そば生産振興組合 | 長野県山ノ内町 |
| 布引そば大八生産組合 | 三重県津市 |
| 志布志市そば生産組合 | 鹿児島県志布志市 |